

日本の山旅・平野ガイドから9月のお便り

★今後の日本の山旅継続について考えてみました★

異常な暑さと不順な天候が続いた今年の夏もそろそろ終わり、爽やか秋の季節が近づいてくる気配が感じられる今日この頃です。7月は1か月に渡る日照不足、8月は史上まれにみる高温の連続。とにかく山歩きへの意欲が失せる悪天候、異常気象が続いたものです。幸か不幸かこの2ヶ月間、日本の山旅もツアーがなく、平野ガイドは暑ささなか、庭仕事で大汗を流し、ひたすら机上仕事に専念、じっと我慢辛抱の期間でした。平野ガイドの大自然パワーもいよいよ限界に達し、先日久しぶりに伊豆猿山を歩いてきました。



●天城連山から西へ続く伊豆山稜線歩道から大自然の桃源郷・猿山へ

伊豆の山といえば天城山・万三郎山から万二郎山にかけての周遊コースが有名で、山好き人は殆どもう歩いたことでしょう。しかし天城猿山を知っている人はまずいないだろうし、そこに伊豆で一番のブナ森があることを誰も知らないのではないのでしょうか。ここはガイドブックやネットにも情報がなく、平野ガイドが数年前に地元の新聞記事でたまたま見つけた穴場コースで、以前山旅便りレポートで紹介したように、今では平野ガイドのみ知る大自然の桃源郷なのです。休日には多くの人や車で混雑する天城街道の途中から、殆ど人の歩かない静寂の大自然を独占して歩ける場所があるとは、また一つ平野ガイドのお気に入りの場所、とっておきの穴場コースが増えました。

さて、9月に入り、これからいよいよ秋の山旅準備に本腰を入れようと思っておりましたが、諸事情により、突然ですがここで大きく深呼吸、今後の日本の山旅について考えたいと思います。

●平野ガイド日本の山旅は今年で終了?! 以後は原点に戻り、ニュージーランド大自然ウォークで本領発揮。日本では山旅ガイド以外の一般職で生計の足しにして、山歩きは平野個人の楽しみ、生きがいとして続けていこうかと思っています。これは未だかつてない私の人生の方向転換であります。まだ考え中ですが…。

●方向転換のわけ：何故そうなったかの考察…

①長年のリピーターの高齢化とグループ活動継続不可の諸事情

最近の日本の山旅は、古くからのリピーター中心、少人数のこじんまりしたツアーで成り立っていました。かつてのように大手旅行社主催による募集も止め、ごく一部のリピーターグループの希望コースを中心にツアーを実施してきました。毎年いくつかのグループがそれぞれ2度以上、多い時は4、5回というケースもありました。私は今後もその形でそれ以上の人数を期待せず、少人数ツアーを継続していくつもりでした。当然のことながら、20年以上のリピーターの皆さんはそれなりに年を重ね、かつて健脚であった人も、今では80歳を超える人も増えてきました。

しかし私が「山歩きは一生続けるべき」と常々言っていたように、無理のない歩き方さえすれば、いつまでも歩けるし、私はそうしたグループが希望する限り、平野ガイドならではの山旅をご案内していくつもりでした。自分たちで温泉旅行をするよりも、平野ガイドの車で山奥に分け入り、大自然の真只中をゆったり歩き、寛ぐ。これならどんな人でも、平野流森歩きで大自然のパワーをもらって皆元気回復、これからもまだまだ山歩きを続けられると。私はそうしたゆったり歩きを今年からさらに充実、これまでない平野ガイドならではの山歩き&ドライブの山旅を用意し、今後より良い山旅プランを企画していくつもりでした。

しかし、この1年で状況は急変、これまで毎年必ず1回以上参加していた人、グループの幾つかが、メンバー、伴侶の体調不良又は不幸により以後の参加不可能となってしまったのです。最近ではおもにこれらの決まったグループを中心にこじんまりと山旅ツアーを継続してきたので、この

影響は実に大きなものでした。こうした悪条件の重なりが、今回の日本の山旅休止、平野ガイドの方向転換への一番の理由といえるでしょう。

②大手格安ハイキング・ツアーへの移行：平野ツアーは高い

最近は大手旅行社によるハイキング・ツアーがブームとなり、日本中至る所を歩く便利で格安の山旅ツアーがブームとなっています。確かに、大手旅行代理店は交通・ホテル共に個人旅行に比べて遥かに安いネット料金で手配できるので、一般の観光旅行並みの低料金で山旅ツアーを募集しています。また全国各地、地元のガイドや関係機関を利用しているので、その品目、種類も多種多彩。利用する側にとっては一番楽に、格安で参加できる便利なツアーゆえ、これまでの日本の山旅リピーターの中にもそれを利用し、今ではそちらに移行した人も少なくないようです。

それらの格安ツアーに比べて、平野ガイド日本の山旅ツアーは確かに高いことは否めません。少人数でのツアー、吟味されたホテル、臨機応変に融通の利く貸切り山旅&ドライブという内容を考えれば、決して高い料金ではありませんが、やはり安くて手軽にいつでも参加できるツアーが魅力的なのは当然のことでしょう。要は価値観の違いで、値段は高いがそれなりの価値があると判断する人のみ、平野ツアーを希望するということです。ただ人気のある山、コースを増やし、集客拡大を目指す大手旅行社のツアーと、山旅ガイド30年の実績がある平野ツアーにどれほどの差があるか、今ではそのことを充分理解して参加する人が減ってしまったことは、本当に残念なことです。

人気のある山をガイドブック通りの模範コースを無難に決められた日程で歩き、常に全員同じペースでまとまって歩く。それはガイドにとって一番楽で簡単なことです。それに比べ、平野ガイド日本の山旅は全く正反対。かつて団体ツアー中心の頃は、全員一体となり絶えず同じペースで歩き、決められたコースを予定通りに歩くというごく一般的な歩き方でした。また当時はまだ国内の山旅ツアーが一般的ではなかったため、歩く山域も有名な山を中心としたものでした。しかし10年ほど前から少人数ツアーに切り替えてからは、平野ガイド運転の貸切りツアーとなり、日程もコースも状況に応じて自由自在に変更する他にはない融通の利いた山旅ツアーのスタイルになりました。ツアー前にその日の天候やコース状況、参加者のレベルによりバストプランを考え、日程を入れ替えたり大幅なコース変更をすることもしばしば。そのため、どんな天気や状況の中でも最良のコース変更や歩き方で、すべてのツアーが大成功、大満足ということが殆どとなり、平野ガイドならではのツアーの形が出来上がりました。

平野ツアーの一番の強みは、マイクロバスでは通行不可、又は一般の車が敬遠する未舗装の林道を目的地の登山口まで車で乗り入れ、無用の林道歩きをカットして、自然道の素晴らしい部分を歩くということです。それにより、歩く距離・時間が大幅に節約でき、ゆったり歩きが可能となったコースも多々ありました。東北を中心に、悪路の林道走行は登山道を案内するよりも遥かに気を使うところで、一般の山旅ツアーではまず企画することはない平野ツアーならではのメリットといえるでしょう。そうした自分でもまた他のツアーでも絶対に体験できない貴重な山旅の有難さをどれほどの人が実感してくれていたでしょうか。

③マイペース優先の歩き方、そしてコーヒータイトにこだわる

少人数での山歩きとなってからは、歩き方も大分変わってきました。かつての団体ツアーのように、常に同じペースで全行程固まって歩くことは止め、安全なところでは極力マイペースで歩くというスタイルに変わってきました。歩くペースは人それぞれです。早いペースの人にとっては、遅いペースに合わせることは苦痛で、山歩きの楽しさを損なうものです。勿論一般の団体ツアーの場合はそれを承知で一緒に歩かねばなりません。平野ツアーの場合は状況に応じて(安全な部分で)マイペースで歩け、時には先行して写真を取ったり、一人歩きの楽しみも味わえる。また遅いペースの人は気兼ねなくゆっくりとマイペースで歩けるというメリットがあります。これはニュージーランドのミルフォード・トラックなどのガイドウォークでも基本の歩き方となっています。

こうした歩き方は、一般の山旅ツアーでは決してあり得ないスタイルで、

常にガイドの目の届くところでまとまって同じペースで歩くというのが鉄則です。確かに常に目の届くところで一緒に歩くことは一番無難で安心、簡単なことです。しかし何故あえて平野ガイドがマイペース歩きにこだわるかといえば、それはそれぞれの人に自分なりのベストの歩き方で山歩きを楽しんでもらいたいからに他なりません。その代わり、どこでマイペース歩きをさせるかは、その都度慎重かつ素早く判断する必要があり、ガイドとしてはより確かなコースの把握と参加者のペース判断など、全員同じペースで歩く時よりも遥かに神経を使うことも確かですが…。

その一方で、危険な場所や歩きにくい部分ではピッタリと同じペースで歩き、すべての人に気を配りながら歩く。これまで30年以上の経験で培われてきた平野ガイドの危険察知能力と念力をフルに発揮し、安全確実にリードしてきたのは当然のことです。

また、平野ツアーならではのメリットの一つに、休憩時やランチタイムに湯を沸かし、コーヒー・紅茶や麦茶のサービスがあります。山歩きの途中で、自分たちで装備を持ち湯を沸かすことが難しい人達にとって、これほど有難いことはないでしょう。長い行程の途中でほっと一息の休憩時のコーヒーや昼食時の熱い麦茶が頑張って如何に美味しいものか。それは山歩きの疲れを癒し、再び元気に歩く原動力となり、山での大きな楽しみにもなるからです。山や森の中でのコーヒータイムは、私自身の山歩きでも欠かすことのできない大きな楽しみ、ゆとりのひと時であると身に染みて実感しているから、共に歩く人にも同様の楽しみを味わってもらいたいです。これは日本でもニュージーランドでも35年間一貫して続けてきたコロミコ・トレック、平野ツアーのマストでありました。

この種のサービスは、大手の山旅ツアーは勿論のこと、他の山専ツアー出も決して真似のできない日本の山旅独自のもので、これのお陰で山歩きが楽しい、これがあるから平野ツアーで歩きたいという人は多かったと思います。1日2回のお茶タイムのためには、一人当たり500mlの水が必要で、最近では最大6名として3ℓプラスの水と山用ストーブ+鍋セット、コーヒーセットなど含めた装備一式を担いで歩くことは、平野ガイドにとってさほど苦になることはありません。かつて30人のツアーの頃は、大鍋セット+10ℓの水はさすがに大変でしたが、30~50台の私は体力もあり、大人数の時にはサブガイドを雇い、人数に関わらずお茶サービスをしていたものです。時にはツアー前日に山の頂上やランチスポットに10ℓの水をデポしたり、とにかく頑張ったものです。

しかし最近では私も年をを考え無理は禁物、それでも軽量化された便利な装備により、6人程度の少人数ならまだまだ充分このサービスは可能です。とにかく現在実施されている他のいかなる山旅ツアーも、この種のサービスを提供しているところはないでしょう。特に大人数のガイドを抱え、数多くのツアーを実施している会社では、それぞれ最新の装備をそろえることは物理的に不可能でしょう。それで今もって山で提供されるようにコーヒータイムは平野ツアーならではの特権、特典?となっているのです。

他のツアーではありえないマイペース歩きとコーヒータイムですが、中にはいずれも不要という人も稀にいるようです。全行程ピッタリと付いて手取り足取りガイドしてもらうのが山旅ツアーで、例えわずかな区間でも一人で歩くのは心細いという人もいます。しかし全くの山歩き初心者ならいざ知らず、自分でもたまに山を歩いている人であれば(日本の山旅参加者は殆どですが)安全な区間を一人で歩くことは全く問題ないはず。それが皆のためにもなるという意識をもって歩くことが大切なのです。

また平野ガイドは、山の頂上や休憩スポットでお茶タイムの準備のために、目的地近くから皆に先行して歩くこともしばしばあります。それは少しでも時間のロスを防ぎ、より多くのゆとりのひと時を持つための重要な手段なのです。平野ガイドは、重荷を背負って全力疾走、皆には「ゆっくり歩いてくればいよいよ」といってマイペースでのんびりと歩いてもらう。昼食後の後片付けも、平野ガイドはその装備ゆえ時間がかかる。場所と時間によっては、皆に先に下ってもらい、一人で後片付け。これも時間のロスを防ぐ一つの手立て、その後大急ぎで荷物をまとめ、またまた全力疾走で皆を追いかける。そして足場の悪そうな場所までに追い付き、そこから一隊となって皆を先導するというのもしばしばある訳です。

稀に「お茶サービスなど無用」とマイボットを持参して、せっかくのお茶サービスを頑なに拒む人もいます。一体、冷めかけたお茶と熱い麦茶やコーヒーにどれほどの差があるか、分からない人もるのですね。

平野ガイドは皆のお茶タイムのために、時には全力疾走で5倍の体力を消耗(それは自身の運動にもなるので何ら苦になりませんが)、危ない個所では5倍の神経を使い皆をガイドする。通常の山ガイドよりも心身共に遥かに負担のかかるガイドスタイルであることを、平野ガイドならではのサービスと理解してもらいたいものです。

③平野ガイドのみ案内可能なコース開拓、その価値判断

平野ガイドはまた、三陸・十二神の森や鈴鹿・三人山をはじめ、ガイドブックにもネットの情報も殆どない今では歩く人稀な未開の大自然を求め、新コースを開拓してきました。それは、山歩きがこれほどまでに大ブームとなった今、有名な山の殆どは登山道の過剰整備による自然道の消滅や観光地並みの大混雑で本来の自然を歩く喜びがなくなったこと。これまで私が提唱し続けてきた「山と森を歩いて大自然のパワーをもらう」とは程遠い、ただ目的地まで歩く山旅のスタイルは、もはや私が目指す山旅ではありません。本来の自然が残るブナ森、しかも昔ながらの自然道を歩ける場所やコースを絶えず探し続けてきた平野ガイドは、素晴らしい穴場コースを開拓してきました。時にルートファインディングを要する難ルートも、何度も探索を重ね、レベルに応じて一般の人も案内できるようなコースを少しずつ増やしていきました。

そうした殆ど大自然を貸し切りで歩ける平野ガイドならではの山歩きは、一般の人では一生かけてもまず歩けない貴重な体験で、それらのコースは本来平野個人の楽しみ、修行の場としてしまっておきたいところです。一般コースに比べて遥かに神経を使い、真剣勝負で歩かねばならないそんなコースに、何故そこまでして人を案内したいのか。それは自分が大自然の神髄に浸ることで得た感動を、皆さんにも体験してもらいたいから。

そのようなルートを歩く時は、何度歩いても時には道に迷うこともしばしばありますが、一般コース以外の山道では大なり小なり道をそれて迷うことは当たり前。その時如何に素早く的確に正しい位置に戻り、目的の方向を目指すかは全てガイドの力量にかかっています。これまで30年以上もこうしたルート歩きの修羅場を体験してきた平野ガイドは、いかなる場面でも決して落ち込むことなく、常に冷静沈着な状況判断と念力により、あらゆる難関を突破してきました。そのような難コースを自分たちだけで歩くことは危険なことで、今後も一般コース以外を歩く機会はないでしょう。しかし平野ガイドと歩くことによって、未知の領域に入ることが可能となり、これまで味わったことのない大自然体験ができる。そのことがいかに価値あることか、分かる人がどれほどいたでしょうか。

④日本の山旅・今後のゆくえ、継続の可能性は?

平野ガイドは今、今後日本の山旅を継続するか否か、最終調整中です。これをもって止めるという訳ではありません。10月以降の山旅については、もし希望があれば実施したいと思います。以下の山旅に絞って募集したいと思います。また、来年以降の山旅についても、平野ガイド日本の山旅の価値を理解し、それが今後の皆さんにとって大きな生き甲斐に繋がり、大自然と真の触れ合いを続けていきたいと思うグループ(個人でも)があれば、最小限の範囲で継続していこうと思っています。

ということで、今年の秋の山旅は大幅に予定が変わりましたが、今から可能な10月以降の山旅は以下の日程に基づいて募集しますが、出発日やコースの変更、調整は可能です。来年からの希望も含め、ご意見その他、平野ガイドまで何なりとご連絡下さい。皆さんからのお電話、メールお待ちしております!今後のスケジュール調整の都合上、できるだけ早めにご連絡いただくと助かります。



[違いの分かる男・平野洋一 / 森に戯れ上質を知る]

▼10月の山旅・平野ガイドー押しコース：真屋ブナ悠々の森▼

東北ブナ森の中で平野ガイドが一番お気に入りのスポット。これまで和賀・真屋山地を歩いたことのある人にもお勧めの新コースです。

■真屋山地・真屋ブナ原生林悠々の森と大空の滝 ゆったり山旅
真屋岳山麓のブナ指標林・手つかずの森で悠々のひと時、錦秋の候に

●10月18日(金)発 2日間 ★健脚度：2-2+

●現地参加料金：¥43,000 (新花巻駅集合・解散)

真屋岳中腹には周辺随一のブナ原生林が広がっています。真屋岳頂上まで無理して行かず、途中のブナ巨木の森で憩い、ブナ指標林中の、手つかずのブナ原生林の中、平野ガイドが見つけた原生林ルートを周回します。今では訪れる人も殆どいない静寂の原生林の中でゆったりとくつろぎます。翌日は原生林ドライブ[なめとこライン]大空の滝入口から、ゆったりとした旧林道(車通行止め)の遊歩道を大空の滝展望地へ。錦秋のブナ林を眺めながらランチタイムの後、往路を登山口へ。*奥のブナ原生林まで往復(約1時間)も可能。

①新花巻駅(10:00頃集合)＝なめとこライン＝大空の滝駐車場…大空の滝展望地…ブナ原生林(往復約3時間～3時間30分)＝南花巻温泉【ホテル志戸平泊】②＝沢内村＝真屋岳兔平登山口…真屋ブナ悠々の森…大ブナ広場＝ブナ原生林内周遊…登山口(計約2時間30分)＝東和温泉(入浴休憩各自)＝新花巻駅(17:00頃着)

⇒大空の滝ゆったりコースよりも歩きごたえのある女神山のブナ森周遊、真屋ブナ悠々の森はさらに兔平のピークまでの健脚度3コースに変更も可能。

★10月20日発 2日間コースは以下の3コースから選択可能★

■秋の裏磐梯・雄国山と雄子沢&デコ平ブナ原生林

裏磐梯五色沼周辺の原生林と渓谷・紅葉の山旅 ★健脚度：2-3

●10月20日(日)発 2日間 ●現地参加料金：¥42,000(会津若松駅集合、解散)

⇒秋の裏磐梯の沼と渓谷、ブナ原生林を巡る秋の山旅。裏磐梯で一番のブナ原生林・デコ平と雄子沢のブナ林を紅葉の時期に訪れます。

①会津若松＝裏磐梯五色沼＝デコ平駐車場…百貫清水…ブナ林巨木広場…布滝(往復約3時間)＝秋元湖・中津川渓谷＝裏磐梯【アクティブリゾート裏磐梯泊】②＝雄子沢登山口…ブナ原生林…△雄国山…雄国沼休憩舎…(雄国沼往復30分)…雄子沢登山口(計約3時間30分)＝会津若松駅

▼ブナの名山を平野流コース巡りでベストスポットをゆったりと周遊▼

■鍋倉山・巨木の谷[森太郎]と天水山ブナの森

信越トレイルのブナ林ベストスポットを巡る、紅葉の山旅スペシャル

●10月20日(日)発 2日間 ★健脚度：3

●現地参加料金：¥42,000(飯山駅集合、越後湯沢駅解散)

⇒最近話題の信越トレイル。全行程80%を歩き通すためには5～6日かかり大変なので、その中でブナ林が最も素晴らしい部分をゆったりとした行程で歩きます。鍋倉山ではブナ巨木・森太郎や巨木の谷を周遊、素晴らしいブナ森をじっくりと探訪します。信越トレイルのもう一つのブナスポット・天水山も松之山からベストコースで往復します

①飯山駅(＝鍋倉山登山口…巨木の谷…△鍋倉山…△黒倉山…茶屋池(計約3時間30分)＝戸狩温泉【泊】③＝天水山松之山登山口…ブナ林…△天水山(往復約3時間)＝越後湯沢(17:00頃着)

*健脚度2のゆったりコースも可能です。

▼車道歩きを最小限に抑えた新しいコース巡りで山とブナ森周遊▼

■玉原高原ブナ林・鹿又山と尼ガ秀山、玉原温泉周遊

関東で一番近いブナ林、紅葉の山旅、高原の宿水芭蕉

●10月20日(日)発 2日間 ★健脚度：2～3

●現地参加料金：¥39,000(上越新幹線上毛高原駅集合・解散)

⇒首都圏から一番近いブナ林・玉原高原を、高原の宿に1泊してゆとりを持って歩きます。玉原温泉を取り巻く2つの山とブナ林の見どころを、2日間に分けてじっくりと歩きます。車道歩きやスキー場コースを極力避けて、自然道を歩けるコース巡りを考えました。

①上毛高原駅(8:54着)＝玉原高原センターハウス…玉原温泉入口…△尼ガ秀山…長沢三角点…ブナ平…センターハウス(周遊約3時間30分)＝高原の宿水芭蕉【泊】②＝鹿又山南登山口…△鹿又山…ブナ平…センターハウス(周遊約4時間)＝上毛高原駅(18:25発)

★10月27日発 2日間コースは以下の2コースから選択可能★

▼人気の鈴鹿山脈の中で人知れぬ自然ルートを歩く新コース▼

■御在所岳・武平峠コースと三人山新周遊コース、

三人山からクラ谷へ自然林周遊、紅葉の御在所岳、最短新コース

●10月27日(日)発 2日間 ★健脚度：2～3

●現地参加料金：¥42,000(桑名駅集合・解散)

⇒従来の御在所岳・中道登山道からの登りは標高差650mの急登や鎖場ありのややきついコースでした。数多くの登山コースの中で最も楽で変化に富んだ武平峠からのコースに変更しました。鈴鹿の山の中で最も自然林が美しい三人山を巡る新コース。乗り換え不便な湯の山温泉駅(近鉄湯の山線)を止めて、桑名駅(JR)集合・解散としました。

①桑名駅(9:27着)＝菟野IC＝鈴鹿スカイライン＝武平峠駐車場…鎌ガ岳分岐…長池…△御在所岳…△南峰…表登山道(周遊約3時間)＝湯の山温泉【ホテル鹿の湯泊】②武平峠下雨乞岳登山口…いっぶく峠…△三人山…南の科尔…クラ谷…コクイ谷分岐…沢谷乗越…いっぶく峠…登山口(周遊約3時間)＝菟野IC＝桑名IC＝桑名駅(17:45発)

*もっと楽をしたい場合は、御在所岳頂上から登山リフト+ロープウェイで下山も可能です。ホテルまで徒歩5分。

新伊豆の山旅その3・秋の天城猿山と東伊豆ジオパーク

天城随一のブナ原生林、小僧山から猿山・兄弟ブナ広場に憩う

①10月27日(日)発 ②11月4日(月)発 2日間 ★健脚度：3～3+

●現地参加料金：¥31,000(三島駅集合・解散)

天城連山から西へと続く伊豆山稜線歩道。その滑沢峠から猿山へと派生する尾根は、天城で最も原生状態が保たれ、静かな山歩きを楽しめる穴場です。ガイドブックにも載っていないマーカーと地図頼りの本来の山歩きの魅力味わえる貴重なスポット。平野流コース巡りで最も効率的かつ最短コースで往復。東伊豆ジオパーク・城ヶ崎海岸遊歩道と観光地化されていない大自然のオアシス・松川湖も訪れます。伊豆高原のリゾートホテル泊、伊豆で一番人気の村の駅にも立ち寄る秋の伊豆周遊山旅&ドライブの旅。

①三島駅(8:19着)＝村の駅＝湯ヶ島＝松川湖(湖畔往復約1時間)＝城ヶ崎海岸ジオパーク遊歩道(大橋照葉樹林往復約40分)＝伊豆高原【ホテルアンビエント伊豆高原泊】②＝冷川＝修善寺＝天城太郎杉＝林道終点猿山登山口…滑沢峠…分岐三方…△小僧山…△猿山…兄弟ブナ広場(往復約5時間)＝道の駅天城越え＝三島駅(18:00頃着)

▼毎年一度は歩きたい奥多摩一番の自然林&自然道、晩秋の季節に▼

■秋の大マテイ山と雁ヶ腹摺山 2日間 晩秋の季節に

①11月4日(月)②11月10日(日)発 ★健脚度：2-3

●現地参加料金：¥28,000(上野原駅集合・解散、又は大月駅解散)

⇒奥多摩周辺で最も自然林が残された大マテイ山を晩秋の季節に。腐葉土と落葉の山道は足に優しく、何度でも歩きたくなる大穴場スポットです。まだの人は是非一度歩いてみてください。2度目以上の人も毎年一度は歩く価値あります。雁ヶ腹摺山は大月から林道を峠まで乗り入れ、最短コースで往復、頂上から五百円札写真の富士山を眺めながらランチタイムを。

■高尾山～景信山周遊：誰も歩いたことのない穴場コース

●11月25日(月)～11月28日(金)の随時、日帰り、3名から実施

●現地参加料金：¥3,000(JR高尾駅集合・解散)

⇒日本の山旅の足慣らし、トレーニングが一番人気の高尾山は、リピーターの皆さんは既に毎年のように何度もいろいろなコースを歩いていることと思います。しかし平野ガイドは裏高尾の林道に高尾山への最短ルートの入口を発見、歩く人も殆どなく、階段もなく歩きやすい山道で、頂上まで20～30分の超穴場コースです。頂上から景信山へ縦走して頂上園地でランチタイム、下山は小下沢へ下る周遊コースを作りました。下山口から出発点までは1時間ほどの長い林道と車道歩きとなりますが、平野流車回送術?で無駄な歩きをカット、これまでにない高尾山～景信山周遊、乞うご期待。

■コロミコ・トレック連絡先：☎/FAX: 045-481-0571

平野携帯：080-5665-9186 ✉ koromiko2@pop07.odn.ne

HP：www.koromikotrek.com 又は[コロミコ・トレック]で検索